

官報

号
国会会議録

令和七年十月二十四日

○第二百十九回 衆議院会議録 第二号(一)

令和七年十月二十四日(金曜日)

議事日程 第二号

令和七年十月二十四日

正午開議

第一 常任委員長の選挙

一 国務大臣の演説

○本日の会議に付した案件

内閣委員長及び厚生労働委員長辞任の件

内閣委員長外六常任委員長の選挙

災害・防災に関する総合的な対策を樹立するため委員三十五人よりなる災害対策特別委員会、政治改革に関する調査を行うため委員四十人よりなる政治改革に関する特別委員会、沖縄及び北方問題に関する対策樹立のため委員二十五人よりなる沖縄及び北方問題に関する特別委員会、消費者の利益の擁護及び増進等に関する総合的な対策を樹立するため委員三十五人よりなる消費者問題に関する特別委員会、東日本大震災からの復興に関する総合的な対策を樹立するとともに、原子力に関する諸問題を調査するため委員四十人よりなる東日本大震災復興及び原子力問題調査特別委員会及び地域活性化・こども政策・デジタル社会形成に関する総合的な対策を樹立するため委員三十五人よりなる地域活性化・こども政策・デジタル社会形成に関する特別委員会

を設置するの件(議長発議)

北朝鮮による拉致等に関する諸問題を調査し、その対策樹立に資するため委員二十五人よりなる北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会を設置するの件(議長発議)

高市内閣総理大臣の所信についての演説

午後零時二分開議

○議長(額賀福志郎君) これより会議を開きます。

常任委員長辞任の件

○議長(額賀福志郎君) 常任委員長辞任の件につきお諮りいたします。

内閣委員長大岡敏孝君及び厚生労働委員長藤丸敏君から、それぞれ常任委員長を辞任したいとの申出があります。これを許可するに御異議ありませんか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕

○議長(額賀福志郎君) 御異議なしと認めます。よって、許可することに決まりました。

常任委員長の選挙

○議長(額賀福志郎君) つきましては、内閣委員長及び厚生労働委員長の選挙を行うのであります。

が、既に外務委員長、文部科学委員長、農林水産委員長、経済産業委員長及び国土交通委員長が欠員となっておりまして、この際、内閣委員長外六常任委員長の選挙を行います。

○小寺裕雄君 各常任委員長の選挙は、その手続を省略して、議長において指名されることを望みます。

○議長(額賀福志郎君) 小寺裕雄君の動議に御異議ありませんか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕

○議長(額賀福志郎君) 御異議なしと認めます。よって、動議のとおり決まりました。

議長は、各常任委員長を指名いたします。

内閣委員長 山下 貴司君

〔拍手〕

外務委員長 國場幸之助君

〔拍手〕

文部科学委員長 斎藤 洋明君

〔拍手〕

厚生労働委員長 大串 正樹君

〔拍手〕

農林水産委員長 藤井比早之君

〔拍手〕

経済産業委員長 工藤 彰三君

〔拍手〕

国土交通委員長 富樫 博之君

〔拍手〕

特別委員会設置の件

○議長(額賀福志郎君) 特別委員会の設置につきお諮りいたします。

災害・防災に関する総合的な対策を樹立するため委員三十五人よりなる災害対策特別委員会、政治改革に関する調査を行うため委員四十人よりなる政治改革に関する特別委員会、沖縄及び北方問題に関する対策樹立のため委員二十五人よりなる沖縄及び北方問題に関する特別委員会

消費者の利益の擁護及び増進等に関する総合的な対策を樹立するため委員三十五人よりなる消費者問題に関する特別委員会、東日本大震災からの復興に関する総合的な対策を樹立するとともに、原子力に関する諸問題を調査するため委員四十人よりなる東日本大震災復興及び原子力問題調査特別委員会及び

地域活性化・こども政策・デジタル社会形成に関する総合的な対策を樹立するため委員三十五人よりなる地域活性化・こども政策・デジタル社会形成に関する特別委員会

を設置したいと存じます。これに御異議ありませんか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕

令和七年十月二十四日 衆議院会議録第二号(一)

常任委員長辞任の件

常任委員長の選挙

特別委員会設置の件

○議長(額賀福志郎君) 御異議なしと認めます。よつて、そのとおり決まりました。

次に、北朝鮮による拉致等に関する諸問題を調査し、その対策樹立に資するため委員二十五人よりなる北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会を設置したいと存じます。これに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長(額賀福志郎君) 起立多数。よつて、そのとおり決まりました。

ただいま議決されました七特別委員会の委員は追つて指名いたします。

○議長(額賀福志郎君) この際、暫時休憩いたします。

午後零時七分休憩

午後二時二分開議

○議長(額賀福志郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

国務大臣の演説

○議長(額賀福志郎君) 内閣総理大臣から所信について発言を求められております。これを許します。内閣総理大臣高市早苗君。

〔内閣総理大臣高市早苗君登壇〕

○内閣総理大臣(高市早苗君) 私は、日本と日本人の底力を信じてやまない者として、日本の未来を切り拓く責任を担い、この場に立つております。

今の暮らしや未来への不安を希望に変え、強い経済を作る。そして、日本列島を強く豊かにしていく。世界が直面する課題に向き合い、世界の真

ん中で咲き誇る日本外交を取り戻す。絶対にあきらめない決意をもって、国家国民のため、果敢に働いてまいります。

政治の安定なくして、力強い経済政策も、力強い外交、安全保障政策も、推進していくことはできない。この思いを胸に、日本再起を目指す広範な政策合意の下、自由民主党、日本維新の会による連立政権を樹立いたしました。

さらに、国家国民のため、政治を安定させる。政権の基本方針と矛盾しない限り、各党からの政策提案をお受けし、柔軟に真摯に議論してまいります。国民の皆様への信頼を回復するため、改革にも全力で取り組んでまいります。

それが国家国民のためであるならば、決してあきらめない。これが、この内閣の不動の方針です。

何を実行するにしても、強い経済をつくる必要があります。そのための経済財政政策の基本方針を申し述べます。

この内閣では、経済あつての財政の考え方を基本とします。強い経済を構築するため、責任ある積極財政の考え方の下、戦略的に財政出動を行います。これにより、所得を増やし、消費マインドを改善し、事業収益が上がり、税率を上げずとも税収を増加させることを目指します。この好循環を実現することによって、国民の皆様に景気回復の果実を実感していただき、不安を希望に変えていきます。

こうした道筋を通じ、成長率の範囲内に債務残高の伸び率を抑え、政府債務残高の対GDP比を引き下げていくことで、財政の持続可能性を実現し、マーケットからの信認を確保していきます。

この内閣が最優先で取り組むことは、国民の皆様が直面している物価高への対応です。暮らしの安心を確かかつ迅速に届けてまいります。

物価上昇を上回る賃上げが必要ですが、それを

事業者に丸投げしてしまつては、事業者の経営が苦しくなるだけです。継続的に賃上げできる環境を整えることが、政府の役割です。

しかし、実質賃金の継続的上昇が定着するまでには、一定の時間を要します。また、米国の関税措置の影響を受ける事業者への対応、経営難が深刻化する医療機関や介護施設への支援なども、急を要します。

既に、経済対策の策定に着手するよう指示を行いました。野党の皆様との真摯な対話と合意を積み重ねながら、速やかに対策を取りまとめ、必要な補正予算を国会に提出いたします。国民の皆様

の暮らしを守る経済対策、補正予算となるよう、与野党で知恵を結集しましょう。

自由民主党がこの夏の参議院議員選挙で公約として掲げた給付金については、国民の皆様への御理解が得られなかったことから、実施しません。むしろ、物価高に関する国民の皆様への御懸念一つ一つに、丁寧に対策をとっていきます。

まず、いわゆるガソリン税の暫定税率については、各党間の議論を踏まえ、今国会での廃止法案の成立を期します。軽油引取税の暫定税率も、早期の廃止を目指します。これらの廃止に伴い必要となる国及び地方自治体の安定財源を確保しつつ、廃止までの間も、補助金を活用することで、価格引下げに対応します。

国民の皆様へのいのちを守り、安心して必要なサービスを受けていただくためにも、赤字に苦しむ医療機関や介護施設への対応は待ったなしです。診療報酬、介護報酬については、賃上げ、物価高を適切に反映させていきますが、報酬改定の時期を待たず、経営の改善及び従業者の処遇改善につなげる補助金を措置して、効果を前倒しします。

加えて、国、地方自治体から民間への請負契約単価を、物価上昇等を踏まえて適切に見直しま

す。

コスト高から中小企業、小規模事業者を守ります。生産性向上支援、事業承継やM&Aの環境整備、更なる取引適正化等を通じ、賃上げと設備投資を強力に後押しします。

自治体向けの重点支援地方交付金を拡充します。物価高の影響を受ける生活者や、賃上げ税制を活用できない中小企業、小規模事業者。さらには、農林水産業などを支援する推奨メニューを設け、地域の実状に合った的確な支援を速やかにお届けいたします。あわせて、寒さが厳しい冬の間の電気・ガス料金の支援も行います。

いわゆる百三万円の壁については、これまでの政党間の協議を踏まえ、今年の年末調整では百六十万円まで対応することといたしますが、基礎控除を物価に連動した形で更に引き上げる税制措置について、真摯に議論を進めます。

いわゆる高校の無償化、給食の無償化についても、これまで党派を超えて積み重ねてきた議論を踏まえ、制度設計の議論を進め、安定財源の確保とあわせて来年四月から実施します。この機会に、財政支援にとどまらず、日本の高校教育の在り方についても見直しを進めます。

そして、税、社会保険料負担で苦しむ中低所得者の負担を軽減し、所得に応じて手取りが増えるようにしなければなりません。早期に給付付き税額控除の制度設計に着手します。

米国の関税措置に対しては、中小企業向けの資金繰り支援等、事業者の状況やニーズに応じた支援メニューを用意し、影響の緩和に万全を期します。

中長期的には、日本経済のパイを大きくしていくことが重要です。我が国の課題を解決することに資する先端技術を開花させることで、日本経済の強い成長の実現を目指します。そのために、日本成長戦略会議を立ち上げます。

この内閣における成長戦略の肝は、危機管理投資です。経済安全保障、食料安全保障、エネルギー安全保障、健康医療安全保障、国土強靱化対策などの様々なリスクや社会課題に対し、官民が手を携え先手を打って行う戦略的な投資です。世界共通の課題解決に資する製品、サービス、インフラを提供できれば、更なる日本の成長につながります。未来への不安を希望に変え、経済の新たな成長を切り拓きます。

AI・半導体、造船、量子、バイオ、航空・宇宙、サイバーセキュリティ等の戦略分野に対して、大胆な投資促進、国際展開支援、人材育成、スタートアップ振興、研究開発、産学連携、国際標準化といった多角的な観点からの総合支援策を講ずることで、官民の積極投資を引き出します。

世界で最もAIを開発、活用しやすい国を目指して、データ連携等を通じ、AIをはじめとする新しいデジタル技術の研究開発及び産業化を加速させます。加えて、コンテンツ産業を含めたデジタル関連産業の海外展開を支援します。

坂口志文さん、北川進さんのノーベル賞受賞をお祝い申し上げます。強い経済の基盤となるのは、優れた科学技術力であり、イノベーションを興すことのできる人材です。公教育の強化や大学改革を進めるとともに、科学技術、人材育成に資する戦略的支援を行い、新技術立国を目指します。

そして、成長戦略を加速させるためには、金融の力が必要です。資産運用立国に向けた貯蓄から投資への取組の成果に基づき、金融を通じ、日本経済と地方経済の潜在力を解き放つための戦略を策定し、官民連携で取り組んでいきます。

こうして日本の供給構造を強化し、世界の投資家が信頼を寄せる経済を実現することで、世界の資本が流れ込む好循環を生み出します。

地域を活性化させ、食料安全保障を確保する観点から、農林水産業の振興が重要です。農業については、五年間の農業構造転換集中対策期間において別枠予算を確保します。世界トップレベルの植物工場、陸上養殖、衛星情報、AI解析、センサーなどの先端技術も活用し、輸出を促進し、稼げる農林水産業を創り出します。

国民生活及び国内産業を持続させ、更に立地競争力を強化していくために、エネルギーの安定的で安価な供給が不可欠です。特に、原子力やペロブスカイト太陽電池をはじめとする国産エネルギーは重要です。GX予算を用いながら、地域の理解や環境への配慮を前提に、脱炭素電源を最大限活用するとともに、光電融合技術等による徹底した省エネや燃料転換を進めます。また、次世代革新炉やフュージョンエネルギーの早期の社会実装を目指します。

こうした施策を直ちに具体化させてまいります。我が国の総力を挙げて、強い経済を実現していくようではありませんか。

日本は世界有数の災害大国です。南海トラフ地震、首都直下地震等の巨大災害に対する事前防災、そして発生してしまった災害の応急対策、復旧復興は、国として対応すべき最優先課題です。防災体制の抜本的強化を図るべく、来年度の防災庁の設立に向け、準備を加速します。あわせて、国、自治体によるシミュレーションによりリスクを総点検し、デジタル技術や衛星情報、電磁波、ドローン等も活用しながら、防災インフラ、老朽化したインフラの整備、保全をはじめ、ハード、ソフトの両面で、事前防災、予防保全を徹底します。

自然災害の頻発化、激甚化に対し、予測技術の向上等を踏まえ、洪水の特別警報や高潮の共同予報・警報を新たに実施する制度改正を行います。首都の危機管理機能のバックアップ体制を構築し、首都機能分散及び多極分散型経済圏を形成する観点から、首都及び副首都の責務と機能に関する検討を急ぎます。

福島県の復興なくして東北の復興なし。東北の復興なくして日本の再生なし。被災者の皆様の生活や産業、生業の再建、福島イノベーション・コースト構想の推進等に取り組みます。

能登半島地震からもうすぐ二年。そして、復興中の奥能登を襲った豪雨から一年が経ちました。能登の賑わいと笑顔を一日も早く取り戻すために、インフラの復旧を急ぐとともに、被災者の皆様の生活支援や生業再建、伝統産業の復興も進めます。

国民の皆様がのちと健康を守ることは、重要な安全保障です。

人口減少、少子高齢化を乗り切るためには、社会保障制度における給付と負担の在り方について、国民的議論が必要です。超党派かつ有識者も交えた国民会議を設置し、給付付き税額控除の制度設計を含めた税と社会保障の一体改革について議論してまいります。野党の皆様にも御参加いただき、共に議論を進めてまいりましょう。

これまでの政党間合意も踏まえ、OTC類似薬を含む薬剤自己負担の見直しや、電子カルテを含む医療機関の電子化、データヘルス等を通じた効率的で質の高い医療の実現等について、迅速に検討を進めます。

高齢化に対応した医療体制の再構築も必要です。入院だけではなく、外来、在宅医療や介護との連携を含む新しい地域医療構想を策定するとともに、地域での協議を促します。加えて、医師の偏在是正に向けた総合的な対策を講じます。あわせて、新たな地域医療構想に向けた病床の適正化を進めます。

こうした社会保障制度改革を進めていく中で、現役世代の保険料負担を抑えます。当面の対応が急がれるテーマについては、早急に議論を進めます。

また、攻めの予防医療を徹底し、健康寿命の延伸を図り、皆が元気に活躍し、社会保障の担い手となつていただけるように取り組みます。特に、性差に由来した健康課題への対応を加速します。

私は長年、女性の生涯にわたる健康の課題に取り組んでまいりましたが、昨年、女性の健康総合センターが設立されました。本センターを司令塔に、女性特有の疾患について、診療拠点の整備や研究、人材育成等に取り組むなど、その成果を全国に広げてまいります。

事を論ずるには、^{すなわ}常に己れの地、己れの身より見^{けん}を起こすべし、^{すな}乃ち着実と為す。

吉田松陰先生の言葉のとおり、地方の活力は、すなわち日本の活力であることを、身をもって知っております。地方が持つ伸び代を活かし、そこに暮らす住民の皆様が暮らしと安全を守ってまいります。

国による一歩前に出た支援の結果、TSMCが進出した熊本県、ラピダスが立地した北海道では、関連する投資が誘発され、様々な経済効果が現れ始めています。こうした事例を、全国各地に次々と生み出していただくではありませんか。

地域を超えたビジネス展開を図る中堅企業を支援し、大胆な投資促進策とインフラ整備を一体的に講ずることで、地方に大規模な投資を呼び込み、地域ごとに産業クラスターを戦略的に形成していくことで、地域未来戦略を推進します。

テクノロジや地域資源を活用した付加価値の創出、地域外へのビジネス展開支援、二地域居住を含む関係人口創出、稼げる農林水産業の創出等を通じて、農山漁村、中山間地域をはじめ地方に活力を取り戻します。

また、若者や女性を含めて、地方に住み続けられるようにします。そのためには、質の高い教育をはじめ、必要な行政サービスを受けられるよう

にすることがあります。税源の偏在性が小さく税収が安定的な地方税体系の構築に向けて取り組みます。

日本の最大の問題は人口減少であるとの認識に立ち、子供、子育て政策を含む人口減少対策を検討していく体制を構築します。

人口減少に伴う人手不足の状況において、外国人材を必要とする分野があることは事実です。インバウンド観光も重要です。

しかし、一部の外国人による違法行為やルールからの逸脱に対し、国民の皆様が不安や不公平を感じる状況が生じていることも、また事実です。

排外主義とは一線を画しますが、こうした行為には、政府として毅然と対応します。政府の司令塔機能を強化し、既存のルールの遵守を求めるとともに、土地取得等のルールの在り方についても検討を進めてまいります。そのために、新たに担当大臣を置きました。

インターネットを悪用した新たな犯罪行為等にも、法規制の強化をはじめとして、厳正に対応していきます。

国民を詐欺から守るための総合対策二・〇に掲げられた取組を着実に実施するとともに、法制度を含めた必要な検討を加速し、いわゆるトクリウの撲滅を目指します。

新たな技術を悪用したストーカー行為等や配偶者からの暴力の被害を防止するため、法規制を強化します。

規制の強化に加え、法制度の時代に即した見直しも進めてまいります。再犯防止のために重要な保護司について、安全確保策の充実を図るなど、制度の持続可能性を高めるための措置を講じます。また、確定した刑事裁判をやり直す再審制度の見直しについて検討を進めます。

我々が慣れ親しんだ自由で開かれた安定的な国

際秩序は、パワーバランスの歴史的变化と地政学的競争の激化に伴い、大きく揺らいでいます。

同時に、我が国周辺では、いずれも隣国である、中国、北朝鮮、ロシアの軍事的動向等が深刻な懸念となっています。

こうした国際情勢の下、世界の真ん中で咲き誇る日本外交を取り戻します。

日米同盟は日本の外交、安全保障政策の基軸です。日米両国が直面する課題に対し、しっかりと連携し、日米同盟の抑止力、対処力を高めていきます。私自身、トランプ大統領が訪日される機会にお会いし、首脳同士の信頼関係を構築しつつ、日米関係を更なる高みに引き上げてまいります。

また、日米同盟を基軸とし、日米韓、日、米、フィリピン、日米豪印等の多角的な安全保障協議も深めてまいります。

在日米軍の円滑な駐留のためには、地元を含む国民の皆様との御理解と御協力を得ることが不可欠です。沖縄県を含む基地負担軽減に引き続き取り組めます。普天間飛行場の一日も早い全面返還を目指し、辺野古への移設工事を進めます。また、強い沖縄経済を作ります。

自由で開かれたインド太平洋を、外交の柱として引き続き強く推進し、時代に合わせて進化させていくとともに、そのビジョンの下で、基本的価値を共有する同志国やグローバルサウス諸国との連携強化に取り組めます。

いわゆるCPTPPについて、戦略的観点から、締約国の拡大に努めます。

重要な隣国である韓国とは、首脳間の対話を通じて、関係強化を図りたいと考えます。

ASEAN諸国との今後の更なる関係強化も進めていきます。

中国は、日本にとって重要な隣国であり、建設的かつ安定的な関係を構築していく必要があります。

す。他方、日中間には、経済安全保障を含む安全保障上の懸念事項が存在することも事実です。日中首脳同士で率直に対話を重ね、戦略的互惠関係を包括的に推進していきます。

北朝鮮による核・ミサイル開発は断じて容認できません。また、被害者や御家族が御高齢となる中で、拉致問題はこの内閣の最重要課題です。全ての拉致被害者の一日も早い御帰国を実現するために、あらゆる手段を尽くして取り組んでまいります。

ロシアによるウクライナ侵略について、力による一方的な現状変更の試みを許してはなりません。日露関係は厳しい状況にありますが、日本政府の方針は、領土問題を解決し、平和条約を締結することです。

二〇二二年十二月の国家安全保障戦略をはじめとする三文書の策定以降、新しい戦い方の顕在化など、様々な安全保障環境の変化も見られます。我が国として主体的に防衛力の抜本的強化を進めることが必要です。このため、国家安全保障戦略に定める対GDP比二％水準について、補正予算と合わせて、今年度中に前倒しして措置を講じます。また、来年中に三文書を改定することを目指し、検討を開始します。

防衛力そのものである防衛生産基盤、技術基盤の強化、防衛力の中核である自衛官の処遇改善にも努めます。

憲法改正について、私が総理として在任している間に国会による発議を実現していただくため、憲法審査会における党派を超えた建設的な議論が加速するとともに、国民の皆様の間での積極的な議論が深まっていくことを期待します。

また、安定的な皇位継承等の在り方に関する各党各会派の議論が深まり、皇室典範の改正につながることを期待しています。

今年は昭和百年、来年は昭和百周年に当たります。昭和は、戦争、終戦、復興、高度経済成長といった、未曾有の変革を経験した時代です。記念式典等の関連施策を通じて、この機会を国家的な節目と捉え、先人の叡智と努力に学ぶとともに、平和の誓いを継承し、国際社会の安定と繁栄への貢献につなげる機会としたいと思えます。

以上、ここに述べました所信に則り、必ずや、日本列島を強く豊かに、日本を再び世界の高みに押し上げてまいります。

事独り断む可からず。必ず衆と与に宜しく論ふ可し。

古来より、我が国においては衆議が重視されてきました。政治とは、独断ではなく、共に語り、共に悩み、共に決める営みです。私は、国家国民のため、各党の皆様と真摯に向き合い、未来を築いてまいります。

どうか皆様、共に日本の新たな一歩を踏み出しましょう。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

○小寺裕雄君 国務大臣の演説に対する質疑は延期し、来る十一月四日午後一時から本会議を開きこれを行うこととし、本日はこれにて散会されることを望みます。

○議長(額賀福志郎君) 小寺裕雄君の動議に御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○議長(額賀福志郎君) 御異議なしと認めます。よって、動議のとおり決まりました。

本日は、これにて散会いたします。

午後二時三十一分散会

出席国務大臣

内閣総理大臣 高市 早苗君
総務大臣 林 芳正君
法務大臣 平口 洋君
外務大臣 茂木 敏充君
財務大臣 片山さつき君
文部科学大臣 松本 洋平君
厚生労働大臣 上野賢一郎君
農林水産大臣 鈴木 憲和君
経済産業大臣 赤澤 亮正君
国土交通大臣 金子 恭之君
環境大臣 石原 宏高君
防衛大臣 小泉進次郎君
国務大臣 小泉進次郎君
国務大臣 小野田紀美君
国務大臣 城内 実君
国務大臣 黄川田仁志君
国務大臣 木原 稔君
国務大臣 牧野たかお君
国務大臣 松本 尚君

出席内閣官房副長官

内閣官房副長官 尾崎 正直君

○議長の報告

(議決通知)

一、去る二十一日、本院は、第二百十九回国会の会期を五十八日間と議決し、その旨参議院及び内閣に通知した。

(内閣総理大臣指名通知)

一、去る二十一日、本院は、衆議院議員高市早苗君を内閣総理大臣に指名し、その旨参議院に通知した。

(通知書受領)

一、去る二十一日、関口参議院議長から額賀議長宛て、参議院は第二百十九回国会の会期を五十八日間と議決した旨の通知書を受領した。

一、去る二十一日、関口参議院議長から額賀議長宛て、参議院は衆議院議員高市早苗君を内閣総理大臣に指名した旨の通知書を受領した。

(内閣総理大臣指名奏上及び通知)

一、去る二十一日、国会は、衆議院議員高市早苗君を内閣総理大臣に指名したことを奏上し、その旨参議院に通知した。

(議席変更)

一、昨二十三日、衆議院規則第十四条ただし書により、議長において議席を次のとおり変更した。

五	島田 洋一君
六	平岩 征樹君
一一八	藤田 文武君
一一九	前原 誠司君
二七七	平沼正二郎君
二七八	高見 康裕君
二七九	土田 慎君
二八〇	岸 信千世君
二八一	穂坂 泰君
二八三	深澤 陽一君
二八四	安藤たかお君
二八五	東 国幹君
二八六	牧島かれん君
二八七	野中 厚君
二八八	斎藤 洋明君
二八九	築 和生君
二九〇	小林 史明君
二九一	宮内 秀樹君
二九二	星野 剛士君
二九三	工藤 彰三君
二九四	山下 貴司君
二九五	大串 正樹君
二九六	笹川 博義君
二九七	木原 誠二君
二九八	鈴木 馨祐君

二九九	伊東 良孝君
三〇〇	齋藤 健君
三〇一	橘 慶一郎君
三〇二	中西 健治君
三〇三	あべ 俊子君
三〇四	平 将明君
三〇五	西銘恒三郎君
三〇六	宮下 一郎君
三〇七	葉梨 康弘君
三〇八	山際大志郎君
三〇九	丹羽 秀樹君
三一〇	寺田 稔君
三一〇	上川 陽子君
三一一	後藤 茂之君
三一二	谷 公一君
三二三	加藤 勝信君
三二四	江藤 拓君
三二五	長島 昭久君
三二六	西村 康稔君
三二七	鬼木 誠君
三二八	松野 博一君
三二九	細野 豪志君
三三〇	小渕 優子君
三三一	古川 禎久君
三三二	小野寺五典君
三三三	小寺 裕雄君
三三六	井上 信治君
三三七	萩生田光一君
三三八	古屋 圭司君
三三九	小林 鷹之君
三三〇	鈴木 俊一君
三三一	梶山 弘志君
三三二	御法川信英君
三三三	森山 裕君
三三四	黄川田仁志君
三三八	あかま二郎君
三三九	

三四〇	石原 宏高君
三四一	小泉進次郎君
三四二	赤澤 亮正君
三四三	城内 実君
三四四	平口 洋君
三四五	上野賢一郎君
三四六	松本 洋平君
三四七	鈴木 憲和君
三四八	松本 尚君
三四九	金子 恭之君
三五〇	林 芳正君
三五一	高市 早苗君
三五二	木原 稔君
三五三	茂木 敏充君
三五四	野田 聖子君
三五五	渡海紀三朗君
三五六	森 英介君
三五九	中谷 元君
三六〇	村上誠一郎君
三六一	小池 正昭君
三六二	福原 淳嗣君
三六三	坂本竜太郎君
三六四	草間 剛君
三六五	長谷川淳二君
三六六	五十嵐 清君
三六七	神田 潤一君
三六八	国定 勇人君
三六九	勝目 康君
三七〇	鈴木 貴子君
三七一	古川 康君
三七二	加藤 鮎子君
三七三	宮路 拓馬君
三七四	鳩山 二郎君
三七五	福田 達夫君
三七六	大野敬太郎君
三七七	武部 新君

四二〇	佐藤 勉君	四二五	岩屋 毅君	四七四	坂本 哲志君	おたけりえ君	井坂 信彦君
四二一	江渡 聡徳君	四二六	山口 俊一君	四七五	永岡 桂子君	下野 幸助君	森田 俊和君
四二二	土屋 品子君	四二九	河野 太郎君	四七六	稲田 朋美君	藤岡たかお君	眞野 哲君
四二三	新藤 義孝君	四三〇	石破 茂君	四七七	三反園 訓君	本庄 知史君	森山 浩行君
四二四	尾崎 正直君	四三三	鈴木 英敬君	四七八	中野 英幸君	馬淵 澄夫君	小山 千帆君
四二五	松島みどり君	四三九	塩崎 彰久君	四七九	上田 英俊君	水沼 秀幸君	岡田 悟君
四二六	田所 嘉徳君	四四〇	石橋林太郎君			山 登志浩君	原田 和広君
四二七	井上 貴博君	四四一	西野 太亮君			市村浩一郎君	浦野 靖人君
四二八	長坂 康正君	四四二	高木 啓君			伊東 信久君	青柳 仁士君
四二九	坂井 学君	四四三	西田 昭二君			三木 圭恵君	うるま護司君
四三〇	尾崎 正直君	四四四	高木 啓君			石井 智恵君	橋本 幹彦君
四三一	新藤 義孝君	四四五	西田 昭二君			菊池大二郎君	森ようすけ君
四三二	土屋 品子君	四四六	高村 正大君			田中 健君	福田 玄君
四三三	江渡 聡徳君	四四七	本田 太郎君			河西 宏一君	吉田 宣弘君
四三四	佐藤 勉君	四四八	古賀 篤君			山崎 正恭君	平林 晃君
四三五	三谷 英弘君	四四九	田畑 裕明君				
四三六	小林 茂樹君	四五〇	國場幸之助君				
四三七	武藤 容治君	四五一	新谷 正義君				
四三八	田中 良生君	四五二	勝俣 孝明君				
四三九	鈴木 隼人君	四五三	井林 辰憲君				
四四〇	宮崎 政久君	四五四	大西 洋平君				
四四一	今枝宗一郎君	四五六	森下 千里君				
四四二	井野 俊郎君	四五七	向山 淳君				
四四三	辻 清人君	四五八	福田かおる君				
四四四	中谷 真一君	四五九	富樫 博之君				
四四五	柴山 昌彦君	四六〇	藤丸 敏君				
四四六	小泉 龍司君	四六一	金子 容三君				
四四七	佐々木 紀君	四六二	栗原 涉君				
四四八	岩田 和親君	四六三	島田 智明君				
四四九	津島 淳君	四六四	若山 慎司君				
四五〇	山田 賢司君	四六五	広瀬 建君				
四五〇	堀内 詔子君	四六六	伊藤 忠彦君				
四五一	根本 幸典君	四六七	関 芳弘君				
四五二	石田 真敏君	四六八	坂井 学君				
四五三	山口 壯君	四六九	小森 卓郎君				
四五四	中村 裕之君	四七〇	加藤 竜祥君				
四五五	長坂 康正君	四七一	川崎ひとと君				
四五六	井上 貴博君	四七二	吉田 真次君				
四五七	田所 嘉徳君	四七三	英利アルフィヤ君				
四五八	松島みどり君						
四五九	坂井 学君						
四六〇	尾崎 正直君						
四六一	新藤 義孝君						
四六二	土屋 品子君						
四六三	江渡 聡徳君						
四六四	佐藤 勉君						
四六五							
四六六							
四六七							
四六八							
四六九							
四七〇							
四七一							
四七二							
四七三							

[illegible]

酒井なつみ君 階 猛君 藤岡たかお君 本庄 知史君 米山 隆一君 早稲田ゆき君 池下 卓君 徳安 淳子君 西田 薫君 三木 圭恵君 浅野 哲君 橋本 幹彦君 山井 和則君 赤羽 一嘉君 大森江里子君 河西 宏一君 決算行政監視委員 高市 早苗君 池田 真紀君 井坂 信彦君 大河原まさこ君 後藤 祐一君 原口 一博君 馬淵 澄夫君 丸尾 圭祐君 谷田川 元君 青柳 仁士君 阿部 司君 白木 秀剛君 鈴木 義弘君 中川 宏昌君 議院運営委員 中司 宏君 吉田 宣弘君	稲富 修二君 野間 健君 井坂 信彦君 道下 大樹君 池田 真紀君 枝野 幸男君 高橋 英明君 猪口 幸子君 萩原 佳君 奥下 剛光君 福田 徹君 森ようすけ君 おおつき紅葉君 中野 洋昌君 沼崎 満子君 鰐淵 洋子君 補欠 森山 裕君 辻 英之君 山岡 達丸君 尾辻かな子君 荒井 優君 山岸 一生君 市来 伴子君 東 克哉君 橋本 慧悟君 斎藤アレックス君 徳安 淳子君 村岡 敏英君 石井 智恵君 角田 秀穂君	懲罰委員 井野 俊郎君 鈴木 隼人君 一、昨二十三日、議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。 内閣委員 井野 俊郎君 栗原 渉君 國場幸之助君 瀬戸 隆一君 西銘恒三郎君 総務委員 大西 洋平君 加藤 竜祥君 川崎ひとと君 小森 卓郎君 斎藤 洋明君 古川 直季君 若山 慎司君 補欠 鬼木 誠君 小寺 裕雄君 川崎ひとと君 若山 慎司君 古川 直季君 金子 容三君 山下 貴司君 向山 淳君 高木 啓君 本田 太郎君 鳩山 二郎君 橘 慶一郎君 小林 史明君 国定 勇人君	法務委員 上田 英俊君 津島 淳君 中野 英幸君 若山 慎司君 外務委員 辻 清人君 広瀬 建君 堀内 詔子君 山田 賢司君 財務金融委員 上田 英俊君 国光あやの君 根本 幸典君 文部科学委員 今枝宗一郎君 小林 茂樹君 橋 慶一郎君 中村 裕之君 厚生労働委員 佐々木 紀君 鈴木 隼人君 長坂 康正君 仁木 博文君 福田かおる君 森下 千里君 吉田 真次君 農林水産委員 栗原 渉君 根本 幸典君 補欠 高村 正大君 鬼木 誠君 田野瀬太道君 小寺 裕雄君 補欠 島田 智明君 大西 洋平君 國場幸之助君 宮路 拓馬君 補欠 三反園 訓君 橘 慶一郎君 加藤 勝信君 岸 信千世君 福田かおる君 笹川 博義君 斎藤 洋明君 あべ 俊子君 小寺 裕雄君 中西 健治君 井出 庸生君 東 国幹君 土田 慎君 栗原 渉君 補欠 宮路 拓馬君 森下 千里君 岩田 和親君 島田 智明君 宮崎 政久君 向山 淳君 大西 洋平君 小森 卓郎君 中谷 真一君 三反園 訓君 佐々木 紀君 島田 智明君 安全保障委員 岩田 和親君 金子 容三君 福田かおる君 向山 淳君 国家基本政策委員 田所 嘉徳君 田所 嘉徳君 予算委員 国光あやの君 小林 茂樹君 田所 嘉徳君 山田 賢司君 補欠 藤井比早之君 広瀬 建君 補欠 西野 太亮君 神田 潤一君 小森 卓郎君 工藤 彰三君 補欠 五十嵐 清君 野中 厚君 武部 新君 上田 英俊君 深澤 陽一君 森下 千里君 長島 昭久君 福田 達夫君 高見 康裕君 吉田 真次君 補欠 武藤 容治君 武藤 容治君 補欠 武藤 容治君 平 将明君 村上誠一郎君 岩屋 毅君
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

決算行政監視委員		
辞任	津島 淳君	補欠
長坂 康正君	鈴木 馨祐君	
中谷 真一君	井出 庸生君	
議院運営委員		
辞任	井出 庸生君	補欠
上田 英俊君	宮内 秀樹君	
鬼木 誠君	塩崎 彰久君	
三谷 英弘君	宮路 拓馬君	
森下 千里君	中曽根康隆君	
懲罰委員	神田 潤一君	
辞任	補欠	
田所 嘉徳君	田野瀬太道君	
(憲法審査会会長辞任)		
一、去る二十一日、憲法審査会において、次の会長の辞任を許可した。		
憲法審査会会長	枝野 幸男君	
(憲法審査会会長補欠選任)		
一、去る二十一日、憲法審査会において、次のとおり会長を補欠選任した。		
憲法審査会会長	武正 公一君	
(憲法審査会幹事補欠選任)		
一、去る二十一日、憲法審査会において、次のとおり幹事を補欠選任した。		
幹事 松尾 明弘君(幹事津村啓介君去る二十一日幹事辞任につきその補欠)		
幹事 米山 隆一君(幹事武正公一君去る二十一日会長就任につきその補欠)		
(憲法審査会委員辞任及び補欠選任)		
一、去る二十一日、議長において、次のとおり委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。		
重徳 和彦君	大串 博志君	補欠
階 猛君	黒岩 宇洋君	
平岡 秀夫君	山岸 一生君	
谷田川 元君	篠原 孝君	
青柳 仁士君	池畑浩太郎君	
阿部 圭史君	黒田 征樹君	
黒田 征樹君	阿部 圭史君	
小林 鷹之君	長島 昭久君	
新藤 義孝君	加藤 勝信君	
高市 早苗君	岩屋 毅君	
古屋 圭司君	中谷 元君	
枝野 幸男君	竹内 千春君	
一、昨二十三日、議長において、次のとおり委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。		
憲法審査会委員	補欠	
辞任	井野 俊郎君	鬼木 誠君
三谷 英弘君	古川 康君	
山田 賢司君	西村 康稔君	
(政治倫理審査会委員辞任及び補欠選任)		
一、去る二十一日、議長において、次のとおり委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。		
政治倫理審査会委員	補欠	
辞任	寺田 学君	吉川 元君
中谷 一馬君	坂本祐之輔君	
谷田川 元君	今井 雅人君	
山岸 一生君	石川 香織君	
米山 隆一君	荒井 優君	
金村 龍那君	伊東 信久君	
藤田 文武君	黒田 征樹君	
石井 智恵君	仙田 晃宏君	
白木 秀剛君	橋本 幹彦君	
吉田 宣弘君	竹内 譲君	
一、昨二十三日、議長において、次のとおり委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。		
政治倫理審査会委員	補欠	
辞任	井出 庸生君	塩崎 彰久君
井野 俊郎君	中曽根康隆君	
上田 英俊君	小寺 裕雄君	
鬼木 誠君	神田 潤一君	
鈴木 隼人君	宮路 拓馬君	
三谷 英弘君	宮内 秀樹君	
(議案受領)		
一、昨二十三日、予備審査のため参議院から送付された次の議案を受領した。		
所得税法の一部を改正する法律案		
地方税法の一部を改正する法律案		
(議案付託)		
一、去る二十一日、委員会に付託された今国会継続の議案は次のとおりである。		
我が国の総合的な安全保障の確保を図るための土地等の取得、利用及び管理の規制に関する施策の推進に関する法律案(前原誠司君外五名提出、第二百十六回国会衆法第二四号)		
自動車盗難対策等の推進に関する法律案(田中健君外一名提出、第二百十七回国会衆法第三一号)		
国家公務員法等の一部を改正する法律案(大島敦君外十七名提出、第二百十七回国会衆法第四三三号)		
国家公務員の労働関係に関する法律案(大島敦君外十七名提出、第二百十七回国会衆法第四四号)		
公務員庁設置法案(大島敦君外十七名提出、第二百十七回国会衆法第四五号)		
有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法の一部を改正する法律案(山田勝彦君外九名提出、第二百十七回国会衆法第六〇号)		
以上六件 内閣委員会 付託		
軽油引取税の税率の特例の廃止に関する法律案(青柳仁士君外一名提出、第二百十七回国会衆法第二二二号)		
地方税法の一部を改正する法律案(吉川元君外六名提出、第二百十七回国会衆法第二七号)		
地方公務員法等の一部を改正する法律案(大島敦君外十五名提出、第二百十七回国会衆法第四六号)		
地方公務員の労働関係に関する法律案(大島敦君外十五名提出、第二百十七回国会衆法第四七号)		
郵政民営化法等の一部を改正する法律案(山口俊一君外六名提出、第二百十七回国会衆法第五八号)		
以上五件 総務委員会 付託		
民法の一部を改正する法律案(黒岩宇洋君外五名提出、第二百十七回国会衆法第二九号)		
婚姻前の氏の通称使用に関する法律案(藤田文武君外二名提出、第二百十七回国会衆法第三〇号)		
組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制等に関する法律及び刑事訴訟法の一部を改正する法律案(円より子君提出、第二百十七回国会衆法第三二二号)		
民法の一部を改正する法律案(円より子君外四名提出、第二百十七回国会衆法第三五号)		
刑事訴訟法の一部を改正する法律案(平岡秀夫君外十九名提出、第二百十七回国会衆法第六一号)		
民法の一部を改正する法律案(大河原まさこ君外七名提出、第二百十七回国会衆法第六四号)		

性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律の一部を改正する法律案(小宮山泰子君外七名提出、第二十七回国会衆法第六五号)

以上七件 法務委員会 付託

賃金上昇を上回る所得税の負担増加等に対処するために所得税に關し講ずべき措置に関する法律案(古川元久君外一名提出、第二十六回国会衆法第一号)

一般会計からの自動車安全特別会計の自動車事故対策勘定への繰入れのために講ずべき措置に關する法律案(田中健君外一名提出、第二十六回国会衆法第四号)

財政法の一部を改正する法律案(田中健君外一名提出、第二十六回国会衆法第一七号)

若者の就労所得に係る所得税の負担を軽減するための所得控除の拡充に關し講ずべき措置に關する法律案(田中健君外一名提出、第二十七回国会衆法第二三三三)

外国為替資金特別会計の在り方の見直しに關する法律案(田中健君外一名提出、第二十七回国会衆法第二五五五)

租税特別措置の適用状況の透明化等に關する法律及び地方税法の一部を改正する法律案(川内博史君外八名提出、第二十七回国会衆法第五二五二)

租税特別措置法及び東日本大震災の被災者等に係る国税関係法律の臨時特例に関する法律の一部を改正する法律案(重徳和彦君外十名提出、第二十八回国会衆法第一一五)

以上七件 財務金融委員会 付託
学校給食法の一部を改正する法律案(城井崇君外十名提出、第二十六回国会衆法第二五五五)
高等学校等就学支援金の支給に關する法律の一部を改正する法律案(津村啓介君外七名提出、第二十七回国会衆法第六六六)

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律の一部を改正する法律案(津村啓介君外七名提出、第二十七回国会衆法第七七五)

以上三件 文部科学委員会 付託

就労支援給付制度の導入に關する法律案(階猛君外五名提出、第二十五回国会衆法第二二五)

育児・介護二重負担者の支援に關する施策の推進に關する法律案(浅野哲君外一名提出、第二十六回国会衆法第一九九)

健康保険法及び高齢者の医療の確保に關する法律の一部を改正する法律案(中島克仁君外九名提出、第二十六回国会衆法第二三三三)

医療保険の被保険者証等の交付等の特例に關する法律案(中島克仁君外十二名提出、第二十七回国会衆法第一一五)

訪問介護事業者に対する緊急の支援に關する法律案(井坂信彦君外十二名提出、第二十七回国会衆法第二二五)

介護・障害福祉従事者の人材確保に關する特別措置法案(井坂信彦君外十五名提出、第二十七回国会衆法第三三三)

健康保険法等の一部を改正する法律案(中島克仁君外十名提出、第二十七回国会衆法第八八五)

医療法等の一部を改正する法律案(内閣提出、第二十七回国会衆法第二二一五)

以上八件 厚生労働委員会 付託
国有林野事業に従事する職員労働関係を円滑に調整するための行政執行法人の労働関係に関する法律の一部を改正する法律案(神谷裕君外八名提出、第二十七回国会衆法第三三八五)
国有林野事業に従事する職員の給与等に関する特例法案(神谷裕君外八名提出、第二十七回国会衆法第三九九五)

農業用植物の優良な品種を確保するための公的新品種育成の促進等に関する法律案(神谷裕君外八名提出、第二十七回国会衆法第四〇〇五)

地域在来品種等の種苗の保存及び利用等の促進に關する法律案(神谷裕君外八名提出、第二十七回国会衆法第四一五)

食料供給困難事態対策法の一部を改正する法律案(神谷裕君外四名提出、第二十七回国会衆法第四二二五)

主要食糧の需給及び価格の安定に關する法律の一部を改正する法律案(近藤和也君外七名提出、第二十七回国会衆法第六二二五)

以上六件 農林水産委員会 付託
電気料金の高騰に対する当分の間の措置として電気の利用者に対して再生可能エネルギー電気に係る賦課金の請求が行われないようにするために講ずべき措置等に関する法律案(丹野みどり君外一名提出、第二十六回国会衆法第五五五)

中小企業正規労働者雇入臨時助成金の支給に關する法律案(階猛君外六名提出、第二十七回国会衆法第一一五)

自動車産業における脱炭素化の推進に關する法律案(重徳和彦君外十八名提出、第二十七回国会衆法第五四四五)

以上三件 経済産業委員会 付託
ライドシェア事業に係る制度の導入に關する法律案(青柳仁士君外二名提出、第二十七回国会衆法第二四四五)

特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法の一部を改正する法律案(谷田川元君外四名提出、第二十七回国会衆法第六三三三)

以上二件 国土交通委員会 付託
国による全ての水保病の被害者の救済の実現に向けた給付金等の支給に係る制度の創設に關する法律案(篠原孝君外九名提出、第二十七回国会衆法第六六六五) 環境委員会 付託

令和六年度一般会計原油価格・物価高騰対策及び賃上げ促進環境整備対応予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その一)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その四)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その五)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その六)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その七)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その八)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その九)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十一)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十二)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十三)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十四)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十五)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十六)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十七)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十八)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その十九)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十一)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十二)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十三)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十四)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十五)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十六)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十七)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十八)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二十九)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十一)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十二)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十三)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十四)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十五)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十六)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十七)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三十八)(承諾を求めるの件)(第二十七回国会、内閣提出)

<p>日本放送協会令和四年度財産目録、貸借対照表、損益計算書、資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書</p> <p>日本放送協会令和五年度財産目録、貸借対照表、損益計算書、資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書</p>	<p>以上四件 総務委員会 付託</p> <p>(議案についての申出)</p> <p>一、去る二十一日、高市内閣総理大臣から議案について次の申出書を受領した。</p> <p>内閣閣第一五九号</p> <p>令和七年十月二十一日</p> <p>内閣総理大臣 高市 早苗</p> <p>衆議院議長 額賀福志郎殿</p>	<p>第二百十七回国会に、前内閣総理大臣から提出し、貴院において継続審査中の左記議案は、その審議を進められるようお願いいたします。</p> <p>記</p> <p>◎第二百十七回国会に提出し、継続審査中のもの</p> <p>○法律案</p> <p>一、医療法等の一部を改正する法律案</p> <p>○承諾を求める件</p> <p>一、令和六年度一般会計原油価格・物価高騰対策及び賃上げ促進環境整備対応予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その一)</p> <p>一、令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その二)</p> <p>一、令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書(その三)</p> <p>(議案提出者訂正)</p> <p>一、十月二十一日、郵政民営化法等の一部を改正する法律案(第二百十七回国会衆法第五八号)の提出者「山口俊一君外六名」を「山口俊一君外四名」に訂正する。</p>	<p>一、十月二十二日、政治資金規正法の一部を改正する法律案(第二百十七回国会衆法第四号)及び政治資金規正法の一部を改正する法律案(第二百十七回国会衆法第五号)の提出者「大野敬太郎君外四名」を「大野敬太郎君外三名」に訂正する。</p> <p>(質問書提出)</p> <p>一、去る二十一日、議員から提出した質問主意書は次のとおりである。</p> <p>就労系障害福祉サービスにおける在宅支援に関する質問主意書(日野紗里亜君提出)</p> <p>事件報道における被疑者の疾患等のプライバシーに関する質問主意書(早稲田ゆき君提出)</p> <p>東京大学における琉球人遺骨の保管状況等に関する質問主意書(上村英明君提出)</p> <p>防衛装備移転円滑化基金に関する質問主意書(平岩征樹君提出)</p> <p>マンシヨン価格抑制と投機的取引規制に関する質問主意書(平岩征樹君提出)</p> <p>護衛艦すずつきの意図しない中国領海侵入事案に関する質問主意書(平岩征樹君提出)</p> <p>推薦依頼と事前運動の関連に関する質問主意書(平岩征樹君提出)</p> <p>暗号資産に対する基本的な認識に関する質問主意書(平岩征樹君提出)</p> <p>幹部自衛官の充足に関する質問主意書(平岩征樹君提出)</p> <p>文化庁が「クリエイターや権利団体はAI技術や契約の知見が乏しい」と発言したとの報道に関する質問主意書(八幡愛君提出)</p> <p>防衛省防衛研究所が所蔵する戦史史料の公開及び複写促進に関する質問主意書(八幡愛君提出)</p> <p>盗撮犯罪の被害拡大に対応する包括的法整備に関する質問主意書(八幡愛君提出)</p> <p>生活保護世帯における大学進学制限に関する質問主意書(八幡愛君提出)</p>	<p>自由民主党・日本維新の会の連立政権に関する質問主意書(中谷一馬君提出)</p> <p>一、去る二十二日、議員から提出した質問主意書は次のとおりである。</p> <p>スポーツワークにおける過去の企業側キャンセルに伴う未払賃金問題に関する質問主意書(水沼秀幸君提出)</p> <p>一、昨二十三日、議員から提出した質問主意書は次のとおりである。</p> <p>令和七年度より開始した高等教育修学支援新制度(多子世帯の学生等に対する大学等の授業料・入学金の無償化等)に関する質問主意書(吉田はるみ君提出)</p> <p>スルガ銀行の不正融資問題に関する懲戒処分行員情報及び報告徴求命令後の実効性等に関する質問主意書(高井崇志君提出)</p>	<p>令和七年十月二十四日 衆議院会議録第二号(一)</p> <p>議長長の報告</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------

官報

号
国会会議録

令和七年十月二十四日

○第二百十九回国 衆議院会議録 第二号(二)

令和七年十月二十四日(金曜日)

開 会 式

午後零時五十八分 参議院議長、衆議院参議院の副議長、常任委員長、特別委員長、参議院の調査会長、衆議院参議院の憲法審査会会長、情報監視審査会会長、政治倫理審査会会長、議員、内閣総理大臣その他の国務大臣、最高裁判所長官及び会計検査院長は、式場である参議院議場に入り、所定の位置に着いた。

午後一時 天皇陛下は、衆議院議長の前行で式場に入られ、お席に着かれた。

衆議院議長は、次の式辞を述べた。

天皇陛下の御臨席を仰ぎ、第二百十九回国会の開会式を行うに当たり、衆議院及び参議院を代表して、式辞を申し上げます。

今日、我が国をめぐる内外の諸情勢はまことに厳しく、早急に対処すべき幾多の重要課題があります。

我々は、この現状を深く認識し、速やかに充実した審議を行い、適切な施策を講じて、国民生活の安定向上に万全を期するとともに、世界の平和と繁栄の実現に一層大きな役割を果たしていかなければなりません。

ここに、開会式に当たり、我々に課せられた重大な使命に鑑み、日本国憲法の精神を体し、各々最善を尽くしてその任務を遂行し、もつて国民の信託に応えようとするものであります。

次いで、天皇陛下から次のおことばを賜った。

本日、第二百十九回国会の開会式に臨み、全国民を代表する皆さんと一堂に会することは、私の深く喜びとするところであります。

ここに、国会が、国権の最高機関として、当面する内外の諸問題に対処するに当たり、その使命を十分に果たし、国民の信託に応えることを切に希望します。

衆議院議長は、おことば書をお受けした。

午後一時五分 天皇陛下は、参議院議長の前行で式場を出られた。

次いで、一同は式場を出た。

午後一時六分式を終わる

